

中国5県絶景の旅①

ひのみさき

「出雲日御碕灯台」

「灯台からの響き」（宮本輝著）の舞台

訪問したのが9月17日火曜日、前日に「木次線ストロール①」の下久野駅取材して、そのまま島根の出雲市街まで行つて一泊。翌朝、車で日御碕を目指した。芸備線や木次線のレポートで県外に遠征するようになって、もっと先の景色を見てみたいと思うようになった。せっかく中国地方に住ん

国道431号線を西に向かうと、出雲大社の正面鳥居前を通る。昨日が敬老の日で連休明けだが、観光客の数が多い。インバウンドの外国人客の姿も目立つ。そのまま直進すると、海岸通りになる。左折すると国道431号線、右折すると県道29号線。右折してしばらく走ると大社漁港がある。その先は海沿いの見晴らしの良い道路で、「岬めぐり」の歌でも口ずさみたくなる。

赤石トンネルを抜けた先に展望台があったので立ち寄った。残暑が厳しく、気温は30度を軽く越え

ている。路端やコンクリートに覆われていない斜面は、葛の葉が覆い尽くしている。この葛の根を乾燥したものが漢方薬の葛根湯の原料なのだが、この旺盛な生命力を有効利用できないものか。このままでは、厄介者のクズである。

階段を上がって展望台に立つと、マリンブルーの海が広がっている。夏の日本海に来る度に、山陰という呼び名に違和感を覚える。遠く左手に見えるのが大田市方面の海岸線で、その向こうに三瓶山の山影が見える。

出雲大社から15分ほどで日御碕神社に到着。後で調べると、日御碕灯台に直接行く道があるようだが、日御碕神社から日御碕灯台まで歩くコースを選んだ。

日御碕神社は、「出雲国風土記」では「美佐伎社」と記されている。楼門をくぐって右手の小高い場所にある上の宮「神の宮」と、正面にある下の宮「日沉宮（ひしづみのみや）」の上下二社からなり、総称して「日御碕神社」と呼ばれている。上の宮には素戔鳴尊（スサノオノミコト）、下の宮には天照大御神（アマテラスオオミカミ）が祀られている。厄除けや縁結びにご利益あり！

鮮やかな朱色が目立つ建物は、細部にまで様々な彫刻や装飾が施されていて、さながら竜宮城のような佇まいだ。両宮に参拝して



マリンブルーの海が水平線まで広がっている



発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン: ROUTE183
協賛：九日市愛好会